

わが心の山 富士を語る その1

「富士山がユネスコの世界文化遺産に登録される見込みである」と、鳴り物入りで報道された。過去に世界自然遺産としての登録を試みたが認められず、文化遺産としてあらためて申請し直したという経緯も報じていた。

日本中の各地で「世界遺産としての登録を！」という動きが、流行のように動いている。国内にも「天然記念物」や「文化財」という名で守っているものが多数あるにもかかわらず「なぜ世界遺産にまでせねばならぬのか？」という疑問は常に存在するが・・・・・・・・。

### <1> 文化とは何か また 文化遺産とは何か

まずは言葉の定義の再確認からと思ひ、国語辞典で確認して見ることにした。

「文化とは？」・・・・・・・・人類の理想を実現していく精神の活動で、技術を通して自然を人間の生活目的に役立てて行く過程で形作られた生活様式及びそれに関する表現。(岩波国語辞典)

・・・・・・・・人間が自然に手を加えて形成してきた物心両面の成果。衣食住をはじめ技術・学問・芸術・道徳・宗教・政治などの生活形成の様式と内容とを含む。文明とほぼ同義に用いられることが多いが、西洋では人間の精神的生活に関わるものを文化と呼び、文明と区別する。(広辞苑)

「文化遺産とは？」・・現在まで伝わって来た古い文化財。(岩波国語辞典)

・・将来の文化的発展のために継承されるべき過去の文化。(広辞苑)

### <2> ユネスコにおける定義について

次に理解しておかなければならないのは、「ユネスコにおける定義」である。

ユネスコにおける「世界遺産」の定義は、「遺跡・景観・自然など、人類が共有すべき顕著な普遍的価値を持つ物件」で、文化遺産・自然遺産・複合遺産に分類されている。

その中で「世界文化遺産」については、三つに分類されている。

1. 記念工作物 (monument) ・・・・・・・・歴史上・芸術上の観点で記念碑的価値が認められた建造物
2. 建造物群 (group of buildings) ・・・・・・・・複数の建造物群を一群として評価したもの
3. サイト (site) ・・・・・・・・建造物や工作物に留まらない地域一帯を指すもの

さらに、登録基準として6項目が定められている。クリアしなければならない基準はひとつでも良いことになっているが、殆どの場合は複数の基準で申請している。(＜>内はその基準だけが適用された例の一部)

1. 人類の創造的才能を表現する傑作 <例：タージマハル、アントニオ・ガウディーの作品群など>
2. ある期間を通じてまたはある文化圏において建築、技術、記念碑的芸術、都市計画、景観デザインの発展に関し人類の価値の重要な交流を示すもの<シュバイヤー大聖堂、チリの鉱山都市など>
3. 現存するまたは消滅した文化的伝統または文明の、唯一のまたは少なくとも稀な証拠  
<例：ベルンの旧市街、ノルウェイ アルタの岩絵など>
4. 人類の歴史上重要な時代を例証する建築様式、建築物群、技術の集積または景観のすぐれた例  
<例：ポーランド ヴィエリチカの岩塩坑、オマーンのパハラ要塞など>
5. ある文化を代表する伝統的集落、あるいは陸上ないし海上利用の際立った例  
もしくは特に不可逆的な変化の中でその存続が危ぶまれている人と環境の関わり合いの際立った例  
<例：ハンガリー ホッローケーの古い村落、ノルウェイのヴェーガ群島など>
6. 顕著で普遍的な意義を有する出来事、現存する伝統、思想、信仰または芸術的、文化的作品と直接にまたは明白に関連するもの  
<例：広島原爆ドーム、アウシュビッツ収容所、アメリカの独立記念館など>

登録にあたっては複数の基準が適用されることが多いが、6項目がすべて適用された例としては「敦煌莫高窟」、「ベネツィアとその潟」などがある。

また、文化遺産の偏りを是正するため、文化的景観や産業遺産、20世紀以降の現代建築なども対象として追加され、その結果「石見銀山」も登録された。さらに、「文化の道」という概念も撮り上げられ、「紀伊山地の霊場と参詣道」などが登録された。

### < 3 > 富士山の世界文化遺産登録

「富士山を世界文化遺産に」と登録申請している内容はどんなものなのか、静岡県と山梨県が協同して推進している「富士山世界文化遺産登録推進両県合同会議」という長い名前の会議体のホームページ (<http://www.fujisan-3776.jp/>) にその詳細が記されている。

「富士山と信仰」「富士山と芸術」「富士山周辺の文化財」「富士山の自然」の四本の柱で整理されていたので、それぞれの中から抜粋して要旨をまとめて見た。

「富士山と信仰」・・・ 富士山は長く遥拝の対象として崇められ、平安時代初期より噴火を鎮めるために山麓に浅間神社が祀られてきた。

平安時代後期には修験道の道場となり、室町時代には登山道が設けられた。それに伴って、登山道に登拝者が宿泊したり立ち寄ったりする施設や仕組みができた。室町時代末期に、長谷川角行を開祖とする富士講が始まり、江戸時代を中心ににぎわいを見せた。

麓の草山（俗界）から 木山（神の領域との境界）へ、そして 焼山（死の世界）へ行って来るといふ行為によって、この世の罪と穢れを除去することを意味した。

「富士山と芸術」・・・ その雄大な独立峰としての山体の美しさに加えて、噴火や積雪などによる俗世間とは超絶した景色が人々の目を引き付け、数々の芸術作品の母胎ともなった。日本最古の歌集である万葉集を始めとして数多くの和歌・俳句・詩歌の題材となって来た。また平安時代後期に制作された聖徳太子絵伝を始めとした数多くの絵画作品も生み出してきた。

これらの芸術作品は海外でも広く知られ、多方面に影響を与えてきた。また、近代以降も小説・詩歌・絵画・写真などのモチーフとなり、文化創造の源となっている。

「富士山周辺の文化財」 「我が国の優れた国土美として欠くことができないもの」が名勝の指定を受けるが、名勝の中でも特に価値が高いものが特別名勝に指定される。これはまさに風景の国宝と言えらる存在である。

名勝の中には自然的名勝（海浜・峡谷・山岳など景色が優れており、名所的あるいは学術的価値が高いもの）と人文的名勝（庭園・公園・橋梁など芸術的あるいは学術的価値が高いもの）がある。

富士山は「特別名勝」及び「史跡」に指定されている文化財である。

「富士山の自然」 富士山は玄武岩でできた大きな成層火山で、先小御岳火山及び小御岳火山の麓に10万年ほど前に誕生し、古富士火山・新富士火山の二世代にわたる噴火活動によって、現在の円錐形の美しい山容ができた。

日本一の高さの富士山では、高山帯から低地帯まで高さの異なる見事な植物分布を形成している。厳しい自然環境にもかかわらず数多くの動物が生息しており、野鳥にいたっては、中部地方に分布するほぼすべての鳥類が富士山麓に生息している。

富士山が生み出す豊富で良質な地下水は、古くから山麓の人々の生活用水・農業用水として利用され、近年では製紙・化学・電子機器などの鉱業の発達にも大きな役割を果たしている。富士山には年間 25 億トンの雨や雪が降り、蒸発散を考

慮すると、日量約 533 万トンの水が地下水として蓄えられていると考えらる。

#### <4> 少しだけ考えて見ることに・・・

##### その① 富士山と信仰について

山には仏教や神道との接点がある。そのひとつとして、頂の名前に宗教的な名称が付けられていることが多い。どこの山にも共通していることだが、「信仰と山」と「山と信仰」という二つの観点で人々の暮らしと密接に関わり合っている。

ひとことで「富士山」と言ってしまう、「清楚なひとつの山」と思っている方が多いかもしれないが、度重なる噴火活動の産物でもあることから、数多くの突起や窪みを持つ複雑な山になっている。そしてそれぞれの峰に付けられた山名が宗教そのものを示している。一例として山頂の「お鉢」と呼ばれる稜線の各々のピークについている山名を書き出してみると。

最高点は剣ヶ峰（3776m）であることはあまりにも有名。剣ヶ峰はお鉢の南西の方向にある。ここから右回りに進んで行きながら各峰の名称と祀られている仏を示してみる。北側にある白山岳は釈迦如来、久須志岳は薬師如来、大日岳は朝日権現、伊豆ヶ岳は阿弥陀如来、成就岳は勢至菩薩、次に奥の院があり、三島岳は文殊菩薩、そして剣ヶ峰に戻る。

山麓には浅間神社が点々と存在し、山に入ってしまうと仏が待ち構えている。六根を清浄にして神仏の領域に入り込むという神聖さがここにはあった。

また、各地から富士山を目指す「富士詣り」「富士講」が組まれて多くの人がこの山に向かった。意外な所に富士講の石碑が建っていたり富士街道があったりするのも大変興味深い、近頃はあまり耳にしない。

##### その② 富士山と芸術について

日本の数多くの画家が富士を描いてきた。中でも中学生の頃に知った葛飾北斎の「富嶽三十六景」「富嶽百景」は、絵画の魅力を知り始めた頃の衝撃的な出会いだった。同じひとつの山を数多くのアングルから、各地から眺めて描いたという点が中学生にとっては驚きだった。大人になってから、北斎が三十六景を描いた場所を探してみようと思って絵と地図を並べて確認して見たが、三十六枚に辿りつく前に挫折した。

登山や旅の道連れにカメラを持つようになってからは、自分なりのお気に入りの「新富嶽 XX 景写真集」でも作ってみようと思って撮りまくったこともあった。長い登山人生の中で富士山を入れた写真は数え切れないほどに撮ったと思うが、その中から三十六景や百景を選び出すのが大変で、これまた挫折した。

小説や随筆や詩などに沢山出てくるし、和歌や俳句にもかなりの数が登場する。ひとつひとつを取り上げるわけにはいかないほどの数になる。太宰治の「富嶽百景」は、「富士には月見草がよく似合う」というくだりで有名だが、この短編の書き出しがそれ以上に面白い。富士山の頂上の頂角について、何人かの画家が描いた富士と実際の富士とを比較してコメントしている。短編小説や随筆の世界を離れた「地理的な研究文」を思わせる文章で深く印象に残った。この書き出しで始まるからこそ、後のページで出て来る「月見草・・・」の下りが生きるのかもしれない。

##### その③ 富士山周辺の文化財について

富士山の周辺にある自然名勝の殆どが度重なる噴火でできたものまたはそれによる副産物のようである。

特に溶岩流が残した様々な現象は、富士の成り立ちを検証するのにも大変役に立っている。

遠くから見る富士山は、かなりシンメトリックな容姿に見えるが、近付いて見ると様々な凹凸を持っている。

また、前述の太宰治の「富嶽百景」でも触れられているように、東から西から南から北からの眺めを比較して見ると様々な形を見せてくれる。それぞれの景観にそれぞれの歴史が重なり合って、富士山その物が学術的価値とともに芸術的価値も兼ね備えている奥行きのある山であることがわかる。

##### その④ 富士山の自然について

富士山に降る雨や雪や氷は伏流水となって麓を潤している。富士吉田・三島など集落にきれいな水路が音をたてているのは何とも生き生きとした景観でもある。しかし、その逆に伏流化した流れにより水を得にくくなっている土地もある訳なので、まさに大自然のなせる技と言わねばならない。

そしてその水が絶壁の岩の隙間から噴き出しているのが白糸の滝であり、地底から噴き出しているのが湖や

忍野八海などの池である。

富士スバルライン・ふじあざみライン・富士山スカイラインなどができたことにより、自動車道の終点が富士登山の起点となってしまった。スバルラインの終点は海拔 2300m、あざみラインの終点は海拔約 2000m、スカイラインの終点は海拔約 2400m、それぞれがすでに亜高山帯に属する高さである。登山口になっている富士五湖の水面は海拔 800～900m、昔のようにここから歩き始めれば、富士山に存在する各種生物の垂直分布が確認できるが、今ではそんな人はかなり少なくなってしまったようだ。里の植物から始まって低山の植物へ、それが亜高山、高山へと変化して行くのがこの目でわかる。まさに生きた博物館と言える。

## < 5 > 私にとっての富士山

昭和 19 年に静岡県吉原市（今の富士市）で生まれ、小学校 5 年生までをこの町で過ごした。窓を開ければ富士が見え、道を歩けば富士が見える。同じ日の富士でも時刻によって刻々と姿かたちを変えて見える。また、雲の位置と形が翌日の天気を予報していることも子どもながら理解できていた。

東京に住むようになり、何度か転居を繰り返す度に、富士山が見えるかどうか気がなった。結婚後千葉に転居するまでは、幸いなことに富士山が見られる場所に住むことができた。

不幸にしてそれが叶わなくなったのは福岡県へ転勤した四年間だった。富士が見られない生活はいささかつまらないので、時々東京へ出張する時には飛行機の席は富士山が見下ろせる窓側にとるようにした。

高校生の時に登山を始め、以降登山に限らず数多くの旅にも出た。関東地方では山に登れば否応なしに富士山が見える。色々な山から、様々な表情の富士を眺め、写真を撮り、スケッチもしてきた。

「我が心の山」と言っても決してオーバーではない富士山、思いを巡らせればいくらでも言葉が出てきそうな、私にとってそんな存在である。

<< 次号につづく >>

以上